

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2011-187227
(P2011-187227A)

(43) 公開日 平成23年9月22日 (2011.9.22)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
HO 1 M 10/50 (2006.01)	HO 1 M 10/50	5 H O 3 O
HO 1 M 10/48 (2006.01)	HO 1 M 10/48 P	5 H O 3 I
	HO 1 M 10/48	

審査請求 未請求 請求項の数 11 O L (全 18 頁)

(21) 出願番号	特願2010-49408 (P2010-49408)	(71) 出願人	000002185
(22) 出願日	平成22年3月5日 (2010.3.5)		ソニー株式会社
		(74) 代理人	100095957
			弁理士 亀谷 美明
		(74) 代理人	100096389
			弁理士 金本 哲男
		(74) 代理人	100101557
			弁理士 萩原 康司
		(74) 代理人	100128587
			弁理士 松本 一騎
		(72) 発明者	守屋 二郎
			東京都港区港南1丁目7番1号 ソニー株式会社内

最終頁に続く

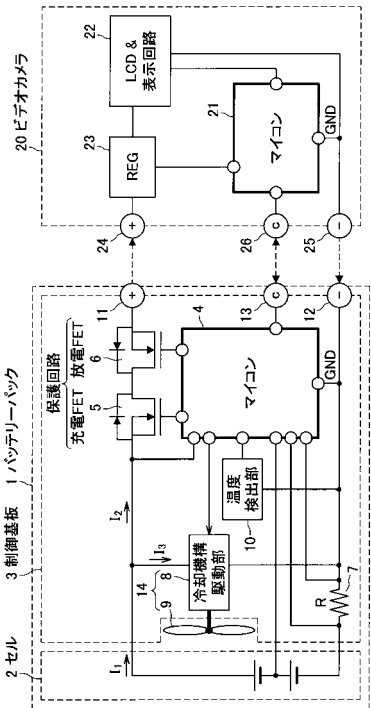
(54) 【発明の名称】 バッテリーパック、電子機器、機器システム、バッテリーパック冷却部の制御方法及びプログラム

(57) 【要約】

【課題】 バッテリーセルを冷却して、供給可能な電流値を向上させることが可能なバッテリーパック、電子機器、機器システム、バッテリーパック冷却部の制御方法及びプログラムを提供する。

【解決手段】 バッテリーセル2と、バッテリーセルの温度を検出する温度検出部10と、バッテリーセルを冷却する冷却部14と、バッテリーセルから電力が供給される電子機器20から、電子機器が冷却部に対応しているか否かの第一の情報を受信する情報受信部42と、第一の情報に基づいて、電子機器が冷却部に対応している場合、検出された温度に応じて冷却部のON又はOFFを切り替え、電子機器が冷却部に対応していない場合、冷却部の駆動をOFFのままとする冷却機能制御部44とを備える。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

バッテリーセルと、
前記バッテリーセルの温度を検出する温度検出部と、
前記バッテリーセルを冷却する冷却部と、
前記バッテリーセルから電力が供給される電子機器から、前記電子機器が前記冷却部に対応しているか否かの第一の情報を受信する情報受信部と、
前記第一の情報に基づいて、前記電子機器が前記冷却部に対応している場合、検出された前記温度に応じて前記冷却部の ON 又は OFF を切り替え、前記電子機器が前記冷却部に対応していない場合、前記冷却部の駆動を OFF のままとする冷却機能制御部と
を備える、バッテリーパック。

10

【請求項 2】

前記電子機器が前記バッテリーセルの使用可能時間を算出するため、前記電子機器へ前記冷却部の消費電力値を送信する情報送信部を更に備える、請求項 1 に記載のバッテリーパック。

【請求項 3】

前記情報送信部は、前記冷却部の駆動が OFF であるとき、前記冷却部の消費電力値を 0 として前記電子機器へ送信する、請求項 2 に記載のバッテリーパック。

【請求項 4】

前記情報送信部は、前記冷却部の駆動が OFF であることを表す情報を前記電子機器へ送信する、請求項 2 に記載のバッテリーパック。

20

【請求項 5】

バッテリーセルと前記バッテリーセルを冷却する冷却部を有するバッテリーパックの前記冷却部に機器本体が対応しているか否かの第一の情報を保持する記憶部と、
前記第一の情報に基づいて、前記機器本体が前記冷却部に対応している場合、検出された前記温度に応じて前記冷却部の ON 又は OFF を切り替え、前記機器本体が前記冷却部に対応していない場合、前記冷却部の駆動を OFF のままとする前記バッテリーパックへ前記第一の情報を送信する情報送信部と
を備える、電子機器。

30

【請求項 6】

前記冷却部の消費電力値を前記バッテリーパックから受信する情報受信部と、
前記冷却部の消費電力値に基づいて前記バッテリーセルの使用可能時間を算出する算出部と
を更に備える、請求項 5 に記載の電子機器。

【請求項 7】

前記情報受信部は、前記冷却部の駆動が OFF であるとき、値が 0 である前記冷却部の消費電力値を前記バッテリーパックから受信する、請求項 6 に記載の電子機器。

【請求項 8】

前記情報受信部は、前記冷却部の駆動が OFF であることを表す情報を前記バッテリーパックから受信する、請求項 6 に記載の電子機器。

40

【請求項 9】

バッテリーセルと、前記バッテリーセルの温度を検出する温度検出部と、前記バッテリーセルを冷却する冷却部と、前記バッテリーセルから電力が供給される電子機器から、前記電子機器が前記冷却部に対応しているか否かの第一の情報を受信する情報受信部と、前記第一の情報に基づいて、前記電子機器が前記冷却部に対応している場合、検出された前記温度に応じて前記冷却部の ON 又は OFF を切り替え、前記電子機器が前記冷却部に対応していない場合、前記冷却部の駆動を OFF のままとする冷却機能制御部とを有するバッテリーパックと；

前記冷却部に機器本体が対応しているか否かの第一の情報を保持する記憶部と、前記バッテリーパックへ前記第一の情報を送信する情報送信部とを有する前記電子機器と；

50

を備える機器システム。

【請求項 10】

バッテリーパックのバッテリーセルの温度を検出するステップと、

前記バッテリーセルから電力が供給される電子機器から、前記電子機器が前記バッテリーセルを冷却する冷却部に対応しているか否かの第一の情報を受信するステップと、

前記第一の情報に基づいて、前記電子機器が前記冷却部に対応している場合、検出された前記温度に応じて前記冷却部の ON 又は OFF を切り替えるステップと、

前記第一の情報に基づいて、前記電子機器が前記冷却部に対応していない場合、前記冷却部の駆動を OFF のままとするステップと

を備える、バッテリーパック冷却部の制御方法。

10

【請求項 11】

バッテリーパックのバッテリーセルの温度を検出する手段、

前記バッテリーセルから電力が供給される電子機器から、前記電子機器が前記バッテリーセルを冷却する冷却部に対応しているか否かの第一の情報を受信する手段、

前記第一の情報に基づいて、前記電子機器が前記冷却部に対応している場合、検出された前記温度に応じて前記冷却部の ON 又は OFF を切り替える手段、

前記第一の情報に基づいて、前記電子機器が前記冷却部に対応していない場合、前記冷却部の駆動を OFF のままとする手段

としてコンピュータを機能させるためのプログラム。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、バッテリーパック、電子機器、機器システム、バッテリーパック冷却部の制御方法及びプログラムに関する。

【背景技術】

【0002】

リチウムイオンバッテリーを始めとするバッテリーパックには、従来から充放電による温度上昇に課題がある。電池温度が上昇し、電池出力、充放電効率又は電池寿命が低下するのを防止するため、下記特許文献 1 のように、冷却ファンを使用して冷却エアを送風してバッテリーを冷却するバッテリーの冷却機構が提案されている。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2003 - 142166 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

近年のバッテリーパック安全規格（電気用品安全法、UL2054 等）では、温度上昇に対する制約は非常に厳しくなっている。一部の規格ではバッテリー単独試験での放電及び充電の温度上昇によって、使用可能な電流値が制限される。

40

【0005】

バッテリーが接続される携帯型の撮像装置に代表される電子機器や充電システム等のバッテリー使用機器は、バッテリーパックの安全規格の制約の範囲内での使用に制限されるため、規定の温度と電流を超えてしまうと使用することができない。条件によっては機能が制限される、もしくは機能停止されることになる。つまり、バッテリー残量があるにもかかわらず使用ができなくなる。

【0006】

上記安全規格の仕様に準拠させ、使用機器側で十分な電流を供給するためには、バッテリー単体での冷却部を備え、温度上昇を抑えることが必要となる。

【0007】

50

しかし、冷却部を備えたバッテリーを使用するには、使用機器側での対応も必要となるが、全ての機器やバッテリーを冷却部対応とすることは商品ラインナップとして非常に困難であり、対応するシステムの構築が必要である。冷却部が稼動した場合は、それに消費する電力が発生するため、従来のバッテリー残量計算では成り立たないため、新たな計算方法の提案が必要である。

【 0 0 0 8 】

そこで、本発明は、上記問題に鑑みてなされたものであり、本発明の目的とするところは、バッテリーセルを冷却して、供給可能な電流値を向上させることが可能な、新規かつ改良されたバッテリーパック、電子機器、機器システム、バッテリーパック冷却部の制御方法及びプログラムを提供することにある。

10

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 9 】

上記課題を解決するために、本発明のある観点によれば、バッテリーセルと、バッテリーセルの温度を検出する温度検出部と、バッテリーセルを冷却する冷却部と、バッテリーセルから電力が供給される電子機器から、電子機器が冷却部に対応しているか否かの第一の情報を受信する情報受信部と、第一の情報に基づいて、電子機器が冷却部に対応している場合、検出された温度に応じて冷却部の ON 又は OFF を切り替え、電子機器が冷却部に対応していない場合、冷却部の駆動を OFF のままとする冷却機能制御部とを備える、バッテリーパックが提供される。

20

【 0 0 1 0 】

上記電子機器がバッテリーセルの使用可能時間を算出するため、電子機器へ冷却部の消費電力値を送信する情報送信部を更に備えてもよい。

【 0 0 1 1 】

上記情報送信部は、冷却部の駆動が OFF であるとき、冷却部の消費電力値を 0 として電子機器へ送信してもよい。

【 0 0 1 2 】

上記情報送信部は、冷却部の駆動が OFF であることを表す情報を電子機器へ送信してもよい。

【 0 0 1 3 】

また、上記課題を解決するために、本発明の別の観点によれば、バッテリーセルとバッテリーセルを冷却する冷却部を有するバッテリーパックの冷却部に機器本体が対応しているか否かの第一の情報を保持する記憶部と、第一の情報に基づいて、機器本体が冷却部に対応している場合、検出された温度に応じて冷却部の ON 又は OFF を切り替え、機器本体が冷却部に対応していない場合、冷却部の駆動を OFF のままとするバッテリーパックへ第一の情報を送信する情報送信部とを備える電子機器が提供される。

30

【 0 0 1 4 】

上冷却部の消費電力値をバッテリーパックから受信する情報受信部と、冷却部の消費電力値に基づいてバッテリーセルの使用可能時間を算出する算出部とを更に備えてもよい。

【 0 0 1 5 】

上記情報受信部は、冷却部の駆動が OFF であるとき、値が 0 である冷却部の消費電力値をバッテリーパックから受信してもよい。

40

【 0 0 1 6 】

上記情報受信部は、冷却部の駆動が OFF であることを表す情報をバッテリーパックから受信してもよい。

【 0 0 1 7 】

また、上記課題を解決するために、本発明の別の観点によれば、バッテリーセルと、バッテリーセルの温度を検出する温度検出部と、バッテリーセルを冷却する冷却部と、バッテリーセルから電力が供給される電子機器から、電子機器が冷却部に対応しているか否かの第一の情報を受信する情報受信部と、第一の情報に基づいて、電子機器が冷却部に対応している場合、検出された温度に応じて冷却部の ON 又は OFF を切り替え、電子機器が

50

冷却部に対応していない場合、冷却部の駆動をOFFのままとする冷却機能制御部とを有するバッテリーパックと；冷却部に機器本体が対応しているか否かの第一の情報を保持する記憶部と、バッテリーパックへ第一の情報を送信する情報送信部とを有する電子機器と；を備える機器システムが提供される。

【0018】

また、上記課題を解決するために、本発明の別の観点によれば、バッテリーパックのバッテリーセルの温度を検出するステップと、バッテリーセルから電力が供給される電子機器から、電子機器がバッテリーセルを冷却する冷却部に対応しているか否かの第一の情報を受信するステップと、第一の情報に基づいて、電子機器が冷却部に対応している場合、検出された温度に応じて冷却部のON又はOFFを切り替えるステップと、第一の情報に基づいて、電子機器が冷却部に対応していない場合、冷却部の駆動をOFFのままとするステップとを備えるバッテリーパック冷却部の制御方法が提供される。

10

【0019】

また、上記課題を解決するために、本発明の別の観点によれば、バッテリーパックのバッテリーセルの温度を検出する手段、バッテリーセルから電力が供給される電子機器から、電子機器がバッテリーセルを冷却する冷却部に対応しているか否かの第一の情報を受信する手段、第一の情報に基づいて、電子機器が冷却部に対応している場合、検出された温度に応じて冷却部のON又はOFFを切り替える手段、第一の情報に基づいて、電子機器が冷却部に対応していない場合、冷却部の駆動をOFFのままとする手段としてコンピュータを機能させるためのプログラムが提供される。

20

【発明の効果】

【0020】

以上説明したように本発明によれば、バッテリーセルを冷却して、供給可能な電流値を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【0021】

【図1】本発明の第1の実施形態に係る機器システムを示すブロック図である。

【図2】同実施形態に係る機器システムの概略を示すブロック図である。

【図3】同実施形態に係るバッテリーパック1のマイコン4を示すブロック図である。

【図4】同実施形態に係るビデオカメラ20のマイコン21を示すブロック図である。

30

【図5】同実施形態に係る機器システムの動作を示すフローチャートである。

【図6】同実施形態に係る機器システムの動作を示すフローチャートである。

【図7】同実施形態に係る機器システムの動作を示すフローチャートである。

【図8】本発明の第2の実施形態に係る充電システムを示すブロック図である。

【図9】同実施形態に係る充電システムの動作を示すフローチャートである。

【図10】同実施形態に係る充電システムの動作を示すフローチャートである。

【図11】バッテリーパック1の温度と時間の関係を示すグラフである。

【発明を実施するための形態】

【0022】

以下に添付図面を参照しながら、本発明の好適な実施の形態について詳細に説明する。なお、本明細書及び図面において、実質的に同一の機能構成を有する構成要素については、同一の符号を付することにより重複説明を省略する。

40

【0023】

なお、説明は以下の順序で行うものとする。

1. 第1の実施形態（機器システム）

2. 第2の実施形態（充電システム）

3. 本発明の実施形態の効果

【0024】

< 1. 第1の実施形態 >

バッテリーパック1と、バッテリーパック1に接続されるビデオカメラ20からなる機

50

器システムについて説明する。本実施形態の機器システムは、図 2 (A) に示すように、冷却部 1 4 を備えるバッテリーパック 1 とビデオカメラ 2 0 等の機器とが接続される場合と、図 2 (B) に示すように、冷却部 1 4 が無いバッテリーパック 1 とビデオカメラ 2 0 等の機器が接続される場合がある。そして、ビデオカメラ 2 0 は、バッテリーパック 1 の冷却部 1 4 に対応した機能を有する場合と、バッテリーパック 1 の冷却部 1 4 に対応していない場合とがある。以下では、冷却部 1 4 を備えるバッテリーパック 1 を「冷却部 1 4 [有] 」とも言い、冷却部 1 4 が無いバッテリーパック 1 を「冷却部 1 4 [無] 」とも言う。また、バッテリーパック 1 の冷却部 1 4 に対応した機能を有するビデオカメラ 2 0 を「バッテリー冷却部 1 4 の対応 [可] 」とも言い、バッテリーパック 1 の冷却部 1 4 に対応していないビデオカメラ 2 0 を「バッテリー冷却部 1 4 の対応 [否] 」とも言う。

10

【 0 0 2 5 】

本実施形態の冷却部 1 4 を備えるバッテリーパック 1 は、例えばエアーポンプ、またはファン等による空冷式冷却機構 9 を有する。従って、バッテリーパック 1 単独でもバッテリーパック 1 の冷却が可能で、バッテリーパック 1 が高温になることを抑制できる。

【 0 0 2 6 】

冷却部 1 4 は電力を消費してしまうため、バッテリーパック 1 の放電時 (接続されるビデオカメラ 2 0 等の機器の使用時) は、バッテリーパック 1 を使用できなくなる上限温度近くにまで達した時のみ稼動するように設定される。

【 0 0 2 7 】

ビデオカメラ 2 0 等の使用機器側におけるバッテリー冷却部 1 4 への対応 [可] / [否] 、バッテリーパック 1 側における冷却部 1 4 の [有] / [無] の情報が、通信で共有され、どの組合せでも使用可能な機器システムとする。例えば、使用機器側がバッテリー冷却部 1 4 の対応 [否] の場合は、バッテリーパック 1 のバッテリー冷却部 1 4 を [O F F 固定] に設定することで、高温時にも冷却部 1 4 は稼動されない。

20

【 0 0 2 8 】

また、本実施形態によるバッテリー残量計算は、冷却部 1 4 の消費電力を盛り込んだ計算式とすることで、冷却稼動時も正確なバッテリー残量の計算を行うことが可能となる。

【 0 0 2 9 】

[バッテリーパック 1]

まず、本実施形態に係るバッテリーパック 1 の構成について説明する。図 1 は、本発明の第 1 の実施形態に係る機器システムを示すブロック図であり、バッテリーパック 1 及びビデオカメラ 2 0 を示すブロック図である。

30

【 0 0 3 0 】

バッテリーパック 1 は、1 つまたは複数のバッテリーセル 2 と、制御基板 3 に実装される充電制御 F E T 5 と、放電制御 F E T 6 と、マイクロコンピュータ (以下、マイコンと言う) 4 と、電流検出抵抗 7 と、温度検出部 1 0 等を備える。更に、バッテリーパック 1 は、例えばエアーポンプ、またはファン等による空冷式冷却機構 9 をセル 2 の近くに配置して、その冷却機構 9 を制御する冷却機構駆動部 8 を装備する。冷却機構駆動部 8 と冷却機構 9 を合せて冷却部 1 4 と言う。

【 0 0 3 1 】

バッテリーパック 1 のマイコン 4 は、ドライバと、A / D コンバータと、不揮発性メモリ (以下、メモリと言う) と、通信インターフェースと、C P U 等を含む。マイコン 4 は、正極のセル端子に接続されてバッテリーセル 2 の出力電圧を検出する。また、マイコン 4 は、電流検出抵抗 7 を間に挟んで接続され電位差による電流値を測定する。更に、マイコン 4 は、サーミスタ等の温度検出部 1 0 に接続されることでバッテリーパック 1 内の温度を検出する。電流値における積算計算結果等も含め全ての C P U の情報は、メモリに保持される。

40

【 0 0 3 2 】

マイコン 4 には、安規上限規制温度値、冷却開始温度値、冷却停止温度値、冷却停止電流値、冷却部 1 4 の [有] / [無] 情報、冷却部 1 4 の消費電力値、満充電容量値、各保

50

護装置の設定値等の固定の情報が、事前に記憶されている。さらに、マイコン 4 は、変動値である出力電圧値、入出力電流値、電流積算値、充放電サイクル情報、バッテリーパック 1 内の温度値等の情報を生成する。

【 0 0 3 3 】

そして、マイコン 4 は、通信インターフェースを通じてコントロール端子 (C) 1 3 から、バッテリー使用機器であるビデオカメラ 2 0 と情報通信を行い、必要な情報を送信している。マイコン 4 は、バッテリー使用機器が稼動状態の場合は、例えば 1 秒間隔等で周期的に最新情報を送信している。なお、本実施形態では、使用機器の例としてビデオカメラ 2 0 を記載しているが、使用機器は、携帯型の撮像装置等の電子機器や充電システム等でもよい。

10

【 0 0 3 4 】

冷却部 1 4 の消費電力値は、冷却方法や能力による消費電力値の違いに対応するため、それぞれに応じた固定の電力値を、バッテリーパック 1 のメモリに書き込んで置く。冷却部 1 4 が稼動していない期間は O F F 時の固定値として 0 m W を送信し、冷却部 1 4 が稼動している期間は固定の電力値を送信する。

【 0 0 3 5 】

マイコン 4 は、図 3 に示すように、ビデオカメラ必要情報送信部 4 1 と、バッテリー必要情報送信部 4 2 と、冷却機能対応判断部 4 3 と、冷却機能制御部 4 4 などを持つ。ビデオカメラ必要情報送信部 4 1 は、情報送信部の一例であり、ビデオカメラ 2 0 がバッテリーパック 1 の使用可能時間を算出するため、ビデオカメラ 2 0 へ冷却部 1 4 の消費電力値等のビデオカメラ 2 0 に必要な情報を送信する。バッテリー必要情報受信部 4 2 は、情報受信部の一例であり、ビデオカメラ 2 0 からビデオカメラ 2 0 が冷却部 1 4 に対応しているか否か等のバッテリーパック 1 に必要な情報 (第一の情報) を受信する。冷却機能対応判断部 4 3 は、バッテリー必要情報に基づいて、ビデオカメラ 2 0 が冷却部 1 4 に対応しているかどうかを判断する。冷却機能制御部 4 4 は、ビデオカメラ 2 0 が冷却部 1 4 に対応している場合、検出された温度に応じて冷却部 1 4 の O N 又は O F F を切り替える。また、冷却機能制御部 4 4 は、ビデオカメラ 2 0 が冷却部 1 4 に対応していない場合、冷却部 1 4 の駆動を O F F のままとする。

20

【 0 0 3 6 】

バッテリーパック 1 は、電力の入出力端子としてプラス端子 1 1 とマイナス端子 1 2 を有する。

30

【 0 0 3 7 】

[ビデオカメラ 2 0]

バッテリーパック 1 が装填される携帯型の撮像装置に代表される電子機器の一例としてカメラ一体型ビデオレコーダ 2 0 (以下、ビデオカメラ 2 0 という) の構成の一例を示す。

【 0 0 3 8 】

ビデオカメラ 2 0 は、マイクロコンピュータ (以下、マイコンという) 2 1 と、表示デバイス (以下、 L C D 表示部という) 2 2 と、電源ブロック (以下、 R E G という) 2 3 を有する。

40

【 0 0 3 9 】

マイコン 2 1 は、各設定やデータを記憶する不揮発性メモリ (以下、メモリという) と、通信インターフェースと、各情報から残量計算等を行う C P U と、表示信号を生成する表示制御回路とを少なくとも備える。

【 0 0 4 0 】

マイコン 2 1 は、図 4 に示すように、ビデオカメラ必要情報受信部 2 1 1 と、バッテリー必要情報送信部 2 1 2 と、残量算出部 2 1 3 などを持つ。ビデオカメラ必要情報受信部 2 1 1 は、情報受信部の一例であり、冷却部 1 4 の消費電力値等のビデオカメラ 2 0 に必要な情報をバッテリーパック 1 から受信する。バッテリー必要情報送信部 2 1 2 は、バッテリーパック 1 の冷却部 1 4 にビデオカメラ 2 0 本体が対応しているか否か等のバッテ

50

リーパック 1 に必要な情報（第一の情報）を送信する。残量算出部は、算出部の一例であり、冷却部 14 の消費電力値に基づいてバッテリーパック 1 の使用可能時間を算出する。

【0041】

LCD 表示部 22 は、マイコン 21 の計算結果に応じた表示信号が供給され、この表示信号からバッテリー残量等を表示する。REG 23 は、バッテリーパック 1 から供給される電力を各ブロックに対して必要な電圧を出力する。なお、ビデオカメラ 20 は、撮影のための構成や撮影した映像信号を記録 / 再生するための各種構成を有するが、図 1 の説明では省略する。

【0042】

上記バッテリーパック 1 のプラス端子 11 は、ビデオカメラ 20 のプラス端子 24 と接続され、バッテリーパック 1 のマイナス端子 12 は、ビデオカメラ 20 のマイナス端子 25 と接続される。そして、ビデオカメラ 20 のプラス端子 24 とマイナス端子 25 を介してバッテリーパック 1 からビデオカメラ 20 に対して電源が供給される。また、バッテリーパック 1 のマイコン 4 と、ビデオカメラ 20 のマイコン 21 との間の情報通信は、バッテリーパック 1 のコントロール端子 (C) 13 とビデオカメラ 20 のコントロール端子 (C) 26 を介して行われる。

【0043】

マイコン 21 には、各使用モードの固定の電力値や各設定値情報に加え、バッテリーの安規放電上限規制温度（動作停止）、動作停止時の復帰可能温度、バッテリーパック 1 の冷却部 14 [無] 時の高温注意喚起温度等も事前に記憶されている。マイコン 21 は、バッテリーパック 1 へ通信インターフェースを通じてコントロール端子 (C) 26 から、セットエンド電圧値、セット電力値等に加え、ビデオカメラ 20 のバッテリー冷却部 14 の対応 [可] / [否] の情報を送信する。

【0044】

バッテリーパック 1 の冷却部 14 が例えば空冷式冷却であった場合、ビデオカメラ 20 にバッテリーパック 1 を内部に設置すると、ビデオカメラ 20 にはバッテリーパック 1 の冷却給排気のための通風経路が外装に必要になることがある。そのため、ビデオカメラ 20 において、通風経路が設けられておらず、バッテリーパック 1 の冷却部 14 に非対応の場合は、冷却部 14 の対応 [否] の情報をビデオカメラ 20 が送信することになる。

【0045】

次に、バッテリーパック 1、ビデオカメラ 20 それぞれが保持する情報について説明する。図 11 に、バッテリーパック 1 の温度イメージを示している。図 11 は、バッテリーパック 1 の温度と時間の関係を示すグラフである。

【0046】

[バッテリー側情報]

以下に、バッテリーパック 1 が保持する情報について説明する。

安規上限規制温度値：単体放電時は特に U L 2054 申請での キャビネットの R T I 温度 (80) がネックとなる

冷却開始温度値：安規上限規制温度値に対してマージンを持って設定された冷却を開始する温度 (例えば 75)

冷却停止温度値：冷却開始されて温度低下した場合に冷却を停止させる温度 (例えば 70)

冷却停止電流値：冷却開始されてから電流が十分低くなった場合は温度上昇しないため冷却停止する (例えば 100 m A)

冷却部 14 の消費電力値：冷却部 14 の消費電力値を固定値 (B) として記憶しておく、冷却部 14 が O F F 状態では 0 m W を固定値 (A) とする。冷却部 14 [O N] として (B)、冷却部 14 [O F F] として (A) を送信することで稼動状態フラグの意味も兼ねる

満充電容量値：満充電されている時の容量 (積算値)、残量計算に使用する

冷却部 14 の [有] / [無] 情報：ラインナップ上、冷却部 14 のないものも存在する

ための識別情報

【 0 0 4 7 】

[ビデオカメラ側情報]

次に、ビデオカメラ 2 0 が保持する情報について説明する。

バッテリーパック 1 の安規放電上限規制温度（動作停止）：機器（ビデオカメラ 2 0 ）側では電安法の規制がネックとなりセル 2 の表面温度（ 8 0 ）によって、動作停止が必要となる

動作停止時の復帰可能温度：動作停止となってから動作復帰させても良いと設定された温度（例えば 7 0 ）

バッテリーパック 1 の冷却部 1 4 [無] 時の高温注意喚起温度等：冷却はないので、動作停止となる前に使用者にアラーム（例えば 7 3 ）

バッテリー冷却部 1 4 の対応 [可] / [否] の情報：バッテリーパック 1 が外付け等で機器（ビデオカメラ 2 0 ）側に対応の必要がないとき、又はバッテリーパック 1 が内部に設置され給排気の通風経路が備わったりしているときは対応 [可] を送信する。冷却稼働しては支障がある場合、又は冷却稼働しても効果がない場合は対応 [否] を送信する。

【 0 0 4 8 】

[機器システムの動作]

次に、ビデオカメラ 2 0 とバッテリーパック 1 からなる機器システムの動作について説明する。

【 0 0 4 9 】

まず、ビデオカメラ 2 0 にバッテリーパック 1 が挿入されたとき、ビデオカメラ 2 0 はバッテリーパック 1 と通信可能であるか否かが確認される（ステップ S 1 1 0 ）。ビデオカメラ 2 0 とバッテリーパック 1 が相互に通信できない場合は、本実施形態は適用できない。一方、ビデオカメラ 2 0 がバッテリーパック 1 と通信できる場合、ビデオカメラ 2 0 にバッテリーパック 1 を装着したときに、バッテリーパック 1 マイコン 4 からビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 へ、ビデオカメラ必要情報を送信する（ステップ S 0 1 0 ）。ビデオカメラ必要情報は、設定エンド電圧値、セル電圧値、放電電流値、バッテリーパック 1 内の温度値、満充電容量値、電流積算値、冷却部 1 4 の [有] / [無] 情報、固定値である冷却部 1 4 の消費電力値等のビデオカメラ 2 0 に必要な情報である。

【 0 0 5 0 】

なお、バッテリーパック 1 の冷却部 1 4 が [O F F] の期間は、冷却部 1 4 の消費電力値を 0 m W としてビデオカメラ 2 0 に送信することで、冷却部 1 4 が [O F F] であることの判別情報も兼ねる。これらは、ビデオカメラ 2 0 の電源が [O N] されていなくてもバッテリーパック 1 が装着された時点で実施される。

【 0 0 5 1 】

ビデオカメラ 2 0 は、ビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 からバッテリーパック 1 マイコン 4 へ、バッテリーパック必要情報を送信する（ステップ S 1 1 2 ）。バッテリーパック必要情報は、セットエンド電圧値、セット電力値、バッテリー冷却部 1 4 の対応 [可] / [否] 等である。これらは、ビデオカメラ 2 0 の電源が [O N] されていなくてもバッテリーパック 1 が装着された時点で実施される。

【 0 0 5 2 】

バッテリーパック 1 の冷却部 1 4 が [有] であるが（ステップ S 0 1 2 ）、ビデオカメラ 2 0 が冷却部 1 4 の対応 [否] の場合（ステップ S 0 1 4 ）は、バッテリーパック 1 は、冷却部 1 4 を [O F F 固定] の設定に切り替える（ステップ S 0 4 0 ）。これにより、バッテリーパック 1 の冷却部 1 4 は使用されない。冷却部 1 4 の [O F F 固定] の設定は、バッテリーパック 1 がビデオカメラ 2 0 から取り外されたり、情報通信が途絶えたりした場合に、解除される。

【 0 0 5 3 】

バッテリーパック 1 の冷却部 1 4 が [有] であり（ステップ S 0 1 2 ）、ビデオカメラ 2 0 が冷却部 1 4 の対応 [可] の場合（ステップ S 0 1 4 ）は、冷却部 1 4 が稼働可能で

10

20

30

40

50

あり、バッテリーパック 1 マイコン 4 は設定温度により冷却部 1 4 を [O N] [O F F] する (ステップ S 0 1 6)。

【 0 0 5 4 】

ビデオカメラ 2 0 の電源が O N された以降は (ステップ S 1 1 4)、周期的にバッテリーパック 1 マイコン 4 から変動値の情報が送信される (ステップ S 0 1 8)。

【 0 0 5 5 】

ビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 は、ビデオカメラ 2 0 の現在の使用モードでの使用可能な残時間 (以下、バッテリー残量と言う) の計算が行われる (ステップ S 1 1 6)。バッテリー残量計算は、充放電サイクル情報、設定エンド電圧値、バッテリーパック 1 内の温度値、満充電容量値、電流積算値等に加えて、ビデオカメラ 2 0 の現在の動作モードの電力値 (固定値) を使用して行われる。

10

【 0 0 5 6 】

本実施形態では、従来計算式の、ビデオカメラ 2 0 の現在の動作モードの電力値 (固定値) に、バッテリーパック 1 からの情報である冷却部 1 4 の消費電力値を加算する総電力値の計算式にする。これにより、バッテリーパック 1 が高温となり冷却部 1 4 が稼動した場合の消費電力も含んだより正確なバッテリー残量を計算することが可能となる。なお、冷却部 1 4 が稼動していない場合や、冷却部 1 4 [無] では、冷却部 1 4 の消費電力値が 0 m W のため、計算式は共通で使用することができる (ステップ S 1 1 6)。

【 0 0 5 7 】

上記計算回路にて求めたバッテリー残量情報は、ビデオカメラ 2 0 の L C D 表示部 2 2 に表示可能な場合 (ステップ S 1 1 8)、L C D 表示部 2 2 に表示される (ステップ S 1 2 0)。

20

【 0 0 5 8 】

そして、バッテリーパック 1 の冷却部 1 4 が [有]、かつビデオカメラ 2 0 の冷却部 1 4 の対応 [可] の場合 (ステップ S 0 1 2 , S 0 1 4)、バッテリーパック 1 は、バッテリーパック 1 温度検出部 1 0 の温度が、マイコン 4 に記憶されている冷却開始温度以下であるか否かを判断する (ステップ S 0 2 0)。バッテリーパック 1 はバッテリーパック 1 温度検出部 1 0 の温度が、冷却開始温度を超えた時点で冷却部 1 4 を稼動する (ステップ S 0 2 2)。

【 0 0 5 9 】

30

バッテリー冷却部 1 4 が稼動状態となったとき、バッテリーパック 1 マイコン 4 からビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 へ、冷却部 1 4 の消費電力値を 0 m W からバッテリーパック 1 マイコン 4 に記憶されている固定値である冷却部 1 4 の消費電力値に変更して送信する (ステップ S 0 2 4)。ビデオカメラ 2 0 に送られる固定値である冷却部 1 4 の消費電力値は、冷却を開始したという情報と兼用しており、ビデオカメラ 2 0 は固定値を受信することで、バッテリーパック 1 の冷却を検出する。なお、冷却を開始したという情報は、固定値である冷却部 1 4 の消費電力値とは別にフラグでもよい。

【 0 0 6 0 】

ビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 は、冷却部 1 4 の消費電力値の情報が入った時点で、冷却部 1 4 の消費電力値を含んだバッテリー残量計算を行う (ステップ S 1 2 2)。算出されたバッテリー残量値と冷却部 1 4 が稼動状態であることの注意喚起の表示は、ビデオカメラ 2 0 の L C D 表示部 2 2 に表示可能な場合 (ステップ S 1 2 4)、ビデオカメラ 2 0 L C D 表示部 2 2 に表示される (ステップ S 1 2 6)。これにより、余分な電力を消費しても継続してビデオカメラ 2 0 を使用するのか、又はビデオカメラ 2 0 の使用を休止してバッテリーパック 1 の温度を低下させるのかの選択肢を使用者に与えることができる。

40

【 0 0 6 1 】

冷却部 1 4 の稼動中は、バッテリーパック 1 マイコン 4 に記憶されているヒステリシスを持って設定された冷却停止温度値以下となるか、または放電電流値が温度上昇に影響しない十分低い値に設定されている冷却停止電流値以下となるかが判断される (ステップ S 0 2 6)。冷却停止温度値以下、冷却停止電流値以下となった場合は、バッテリーパック

50

1 マイコン 4 は冷却部 1 4 を停止する（ステップ S 0 2 8）。その時点で、バッテリーパック 1 マイコン 4 からビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 へ冷却部 1 4 の消費電力値を 0 mW に変更して送信する（ステップ S 0 3 0）。

【0062】

ビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 は、冷却部 1 4 の消費電力値の情報がいった時点で冷却部 1 4 の消費電力値を 0 mW としてバッテリー残量計算を行う（ステップ S 1 1 6）。そして、冷却部 1 4 が稼働状態の注意喚起の表示を削除して、算出されたバッテリー残量値をビデオカメラ 2 0 L C D 表示部 2 2 に表示する（ステップ S 1 2 0）。

【0063】

異常要因等で冷却部 1 4 が稼働中でもさらに温度が上昇してしまい、安規放電上限規制温度値に達してしまった場合（ステップ S 1 2 8）、ビデオカメラ 2 0 は、ビデオカメラ 2 0 の動作を強制的に停止する（ステップ S 1 3 0）。ビデオカメラ 2 0 の動作を停止するかは、バッテリーパック 1 マイコン 4 から周期的に送信される情報から、ビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 に記憶されているバッテリー安規放電上限規制温度動作以上であるか否かを判断する。

【0064】

ビデオカメラ 2 0 の動作を停止する場合、ビデオカメラ 2 0 の L C D 表示部 2 2 に表示可能なときは（ステップ S 1 2 4）、ビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 と L C D 表示部 2 2 のみは稼働状態とし、バッテリー高温での動作停止状態の警告表示を行う（ステップ S 1 3 4）。

【0065】

次に、バッテリーパック 1 マイコン 4 から周期的に送信される情報からバッテリーパック 1 内の温度が動作復帰可能温度値に達したか否かが判断される（ステップ S 1 3 6）。動作復帰可能温度値は、ビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 に記憶されているヒステリシスをもって設定された値である。

【0066】

バッテリーパック 1 内の温度が動作復帰可能温度値以下に達した時点で、ビデオカメラ動作は復帰される（ステップ S 1 3 8）。

【0067】

バッテリー冷却部 1 4 が〔無〕の場合、又はビデオカメラ 2 0 のバッテリー冷却部 1 4 の対応〔否〕の場合は、バッテリーパック 1 マイコン 4 からビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 へ、周期的に、ビデオカメラ必要情報を送信する（ステップ S 0 4 2）。このとき、バッテリーパック 1 マイコン 4 からビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 へ冷却部 1 4 の消費電力値を 0 mW として送信する。

【0068】

そして、ビデオカメラ 2 0 の動作時（撮影時及び再生時等）において、バッテリーパック 1 内の温度が上昇した場合は、ビデオカメラ 2 0 は、バッテリー高温注意喚起温度値以上と判断した時点で、バッテリー高温注意喚起の表示を行う（ステップ S 1 5 2）。バッテリー高温注意喚起温度値は、冷却部 1 4 〔無〕時に注意喚起するためのビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 に記憶されている値である。ビデオカメラ 2 0 がバッテリー高温注意喚起温度値以上であるか否かの判断は、バッテリーパック 1 マイコン 4 から周期的に送信される情報に基づいて行われる。

【0069】

ビデオカメラ 2 0 は、安規放電上限温度値以下であり、ビデオカメラ 2 0 の L C D 表示部 2 2 に表示可能な場合（ステップ S 1 5 0）、L C D 表示部 2 2 は、高温注意喚起表示と残量表示を行う（ステップ S 1 5 2）。

【0070】

また、ビデオカメラ 2 0 は、バッテリーパック 1 マイコン 4 から周期的に送信される情報からビデオカメラ 2 0 マイコン 2 1 に記憶されているバッテリー安規放電上限規制温度動作以上であるか否かを判断する（ステップ S 1 4 8）。バッテリー高温注意喚起温度値

10

20

30

40

50

を超えて、さらに継続して使用され、安規放電上限規制温度値に達してしまった場合、ビデオカメラ 20 の動作を停止する（ステップ S 154）。

【0071】

ビデオカメラ 20 の動作を停止する場合、ビデオカメラ 20 の LCD 表示部 22 に表示可能な場合（ステップ S 156）、ビデオカメラ 20 マイコン 21 と LCD 表示部 22 のみは稼動状態とし、バッテリー高温での動作停止状態の警告表示を行う（ステップ S 158）。

【0072】

そして、バッテリーパック 1 マイコン 4 から周期的に送信される情報からバッテリーパック 1 内の温度がビデオカメラ 20 マイコン 21 に記憶されているヒステリシスをもって設定された動作復帰可能温度値以下に達した時点で、ビデオカメラ動作は復帰される（ステップ S 162）。

【0073】

下記に、ビデオカメラ 20 のバッテリー残量計算式例を下記に記す。本実施形態のバッテリー残量計算では、バッテリーの冷却部 14 の消費電力値（固定値もしくは 0 mW）を含む。

$$\text{バッテリー残量時間} = (B_{\text{now}} / B_{\text{max}}) \times (M_w / (W_{\text{set}} + W_{\text{battcool}}))$$

B_{max} : バッテリーの満充電状態電流積算値

B_{now} : バッテリーの現時点電流積算値

M_w : ビデオカメラの基準電力での撮影時間

W_{set} : ビデオカメラの使用モードの電力値

W_{battcool} : バッテリーの冷却部 14 の消費電力値

【0074】

なお、図 1 や、上述した説明ではエアーポンプ、またはファン等による空冷式冷却の場合を例に説明しているが、液体を循環させる水冷式冷却やペルチェ素子等による電子式冷却の冷却機構を冷却機構 9 としても本提案のシステム制御で対応することが可能である。

【0075】

< 2 . 第 2 の実施形態 >

バッテリーパック 1 と、バッテリーパック 1 に接続される充電器 30 からなる充電システムについて説明する。バッテリーパック 1 の構成は、第 1 の実施形態で説明したバッテリーパック 1 と同一である。

【0076】

次に、本実施形態に係る充電器 30 の構成について説明する。図 8 は、バッテリーパック 1 及び充電器 30 を示すブロック図である。

【0077】

充電器 30 は、マイクロコンピュータ（以下、マイコンと言う）31 と、表示デバイス（以下、LCD 表示部と言う）32 と、電源ブロック（以下、REG と言う）33 を有するものである。なお、主機能である充電のための電源回路関連は充電制御回路 34 とする。

【0078】

マイコン 31 は、各設定やデータを記憶する不揮発性メモリ（以下、メモリと言う）と、通信インターフェースと、各情報から充電時間や残量計算等を行う CPU と、表示信号を生成する表示制御回路とを少なくとも備える。

【0079】

LCD 表示部 32 は、マイコン 31 の計算結果に応じた表示信号が供給され、この表示信号から充電時間等を表示する。REG 33 は、各ブロックに必要な電圧を出力する。

【0080】

上記バッテリーパック 1 のプラス端子 11 は、充電器 30 のプラス端子 35 と接続され

10

20

30

40

50

、バッテリーパック 1 のマイナス端子 1 2 は、充電器 3 0 のマイナス端子 3 6 と接続される。そして、充電器 3 0 のプラス端子 3 5 とマイナス端子 3 6 を介して充電器 3 0 からバッテリーパック 1 に対して充電電流が供給される。また、バッテリーパック 1 マイコン 4 と充電器 3 0 マイコン 3 1 との間の情報通信は、バッテリーパック 1 のコントロール端子 (C) 1 3 と充電器 3 0 のコントロール端子 (C) 3 7 を介して行われる。

【 0 0 8 1 】

マイコン 3 1 には、バッテリーの安規充電上限規制温度値等の情報が事前に記憶されている。マイコン 3 1 は、バッテリーパック 1 へ充電器 3 0 のバッテリー冷却部 1 4 の対応 [可] / [否] の情報等バッテリー必要情報を送信する。

【 0 0 8 2 】

[充電システムの動作]

次に、充電器 3 0 とバッテリーパック 1 からなる充電システムの動作について説明する。充電システムでは、第 1 の実施形態の機器システムと異なり、機器の使用による電力消費 (放電) がないため、充電開始と共に冷却を開始する。

【 0 0 8 3 】

まず、充電器 3 0 にバッテリーパック 1 が挿入されたとき、充電器 3 0 はバッテリーパック 1 と通信可能であるか否かが確認される (ステップ S 2 1 0)。充電器 3 0 とバッテリーパック 1 が相互に通信できない場合は、本実施形態は適用できない。一方、充電器 3 0 がバッテリーパック 1 と通信できる場合、充電器 3 0 にバッテリーパック 1 を装着したときに、バッテリーパック 1 マイコン 4 から充電器 3 0 マイコン 3 1 へ、充電器必要情報を送信する (ステップ S 0 5 0)。充電器必要情報は、充放電サイクル情報、セル電圧値、充電電流値、バッテリーパック 1 内の温度情報、満充電容量値、電流積算値、ビデオカメラ 2 0 等の直前使用機器の電力値、さらに冷却部 1 4 の [有] / [無] 情報、冷却部 1 4 の消費電力値情報等の充電器 3 0 に必要な情報である。

【 0 0 8 4 】

なお、冷却部 1 4 が稼動していない期間は、冷却部 1 4 の消費電力値は 0 m W を出力することで、冷却部 1 4 の稼動状態判別情報として使用する (ステップ S 0 5 0)。

【 0 0 8 5 】

充電器 3 0 は、バッテリー冷却部 1 4 の対応 [可] / [否] 等のバッテリー必要情報を送信する (ステップ S 2 1 2)。

【 0 0 8 6 】

バッテリーパック 1 が冷却部 1 4 の [有] で (ステップ S 0 5 2)、充電器 3 0 のバッテリー冷却部 1 4 の対応 [可] の場合は (ステップ S 0 5 4)、電源が ON され充電が開始されてから、充電器 3 0 マイコン 3 1 よりバッテリー冷却部 1 4 [ON 固定] の指令を送る (ステップ S 0 5 6)。これにより、バッテリーパック 1 マイコン 4 は、冷却部 1 4 を [ON 固定] の設定に切り替える (ステップ S 0 5 8)。その結果、充電開始時から冷却部 1 4 が稼動し、バッテリーパック 1 の温度上昇を抑える。

【 0 0 8 7 】

冷却部 1 4 固定の設定は、充電器 3 0 から取り外されたり、情報通信が途絶えたりした場合には、固定設定の解除を行う。また、充電電流を下げなくてはならない低温時は、冷却が実行されないように、バッテリー冷却部 1 4 [ON 固定] の指令を送らない。

【 0 0 8 8 】

また、充電器 3 0 は、通常より高い大電流で充電を行う急速充電モードの切り替えを行い、充電時間を短縮することができる (ステップ S 2 1 8)。

【 0 0 8 9 】

バッテリーパック 1 マイコン 4 から充電器 3 0 マイコン 3 1 へ周期的に送信される情報から、直前使用機器で使用される場合のバッテリー残時間等を求める計算が行われる。また、満充電容量、電流積算値、充電電流値から充電完了時間の計算が行われる。なお、バッテリー情報の充電電流値は、冷却部 1 4 の消費分を含まない。そのため、冷却部 1 4 [ON] / [OFF] を問わず、計算式は共通となる (ステップ S 2 2 0 , S 2 3 4)。

10

20

30

40

50

【 0 0 9 0 】

ビデオカメラ 20 の LCD 表示部 22 に表示可能な場合（ステップ S 2 2 2 , 2 3 6 ）
、充電時間及び残量時間を、LCD 表示部 32 に表示する（ステップ S 2 2 4 , S 2 3 8
）。

【 0 0 9 1 】

バッテリー冷却部 14 が [有] / [無]、充電器 30 のバッテリー冷却部 14 の対応 [可] / [否] の条件を問わず、バッテリーパック 1 内の温度が充電器 30 マイコン 31 に記憶されているバッテリー安規充電上限規制温度以下であるか否かを判断する（ステップ S 2 2 6 , S 2 4 0 ）。

【 0 0 9 2 】

バッテリーパック 1 内の温度が上昇し、バッテリー安規充電上限規制温度に達した時点で充電は休止状態に移行する（ステップ S 2 2 8 , S 2 4 2 ）。

【 0 0 9 3 】

バッテリーパック 1 内の温度が、充電器 30 マイコン 31 に記憶されているヒステリシスをもった充電休止解除温度以下になった時点で、もしくは、固定で設定されている休止時間経過後に充電は再開される（ステップ S 2 3 2 , S 2 4 6 ）。

【 0 0 9 4 】

< 3 . 本発明の実施形態の効果 >

本発明の第 1 の実施形態に係る機器システムでは、バッテリーパック 1 単独でも高温時に冷却部 14 が稼動するため、安規試験の温度上昇で制約のある放電と充電の許容電流値を大きく上げることが可能となり、使用される電子機器が安規上の電流に制約されることがなくなる。

【 0 0 9 5 】

また、使用機器（ビデオカメラ 20 ）側におけるバッテリー冷却部 14 の対応 [可] / [否]、バッテリーパック 1 側における冷却部 14 の [有] / [無] の情報を通信で共有し、冷却部 14 の固定設定等を行うことで、どの組合せでも使用可能なシステムとなる。その結果、使用機器とバッテリーパックで広範囲なラインナップが可能になる。例えば、ラインナップの中で、低コストのバッテリーパック、又は容量が少なくバッテリーエンドまで放電しても温度に十分な余裕のあるバッテリーパックの場合、冷却部 14 は備えなくてもシステム対応が可能である。

【 0 0 9 6 】

更に、バッテリー残量計算式に、冷却部 14 の消費電力を盛り込んでおくことで、バッテリー冷却部 14 の対応 [可] / [否]、冷却部 14 の [有] / [無] 全ての場合において、正確なバッテリー残量計算を行うことができる。

【 0 0 9 7 】

また更に、機器の使用による放電時の冷却部 14 の稼動は、上限温度近くまで上昇した場合のみに限定することで、バッテリーの不要な電力消費を抑えられる。

【 0 0 9 8 】

また、冷却部 14 の稼動中は、機器（ビデオカメラ 20 ）の表示部にバッテリー冷却部 14 が稼動中である注意喚起表示を行うことで、余分な電力を消費しても継続して機器を使用するのか、又は機器の使用を休止してバッテリーパック 1 の温度を低下させるのかの選択肢を使用者に与えることができる。

【 0 0 9 9 】

第 2 の実施形態に係る充電システムでは、バッテリーパック 1 側からの冷却部 14 の [有] 情報に基づいて、開始時から冷却部 14 を稼動し通常充電よりも大電流の急速充電モードに移行させることで、充電時間の短縮を行うことができる。

【 0 1 0 0 】

以上、添付図面を参照しながら本発明の好適な実施形態について詳細に説明したが、本発明はかかる例に限定されない。本発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者であれば、特許請求の範囲に記載された技術的思想の範疇内において、各種の変更例ま

10

20

30

40

50

たは修正例に想到し得ることは明らかであり、これらについても、当然に本発明の技術的範囲に属するものと了解される。

【符号の説明】

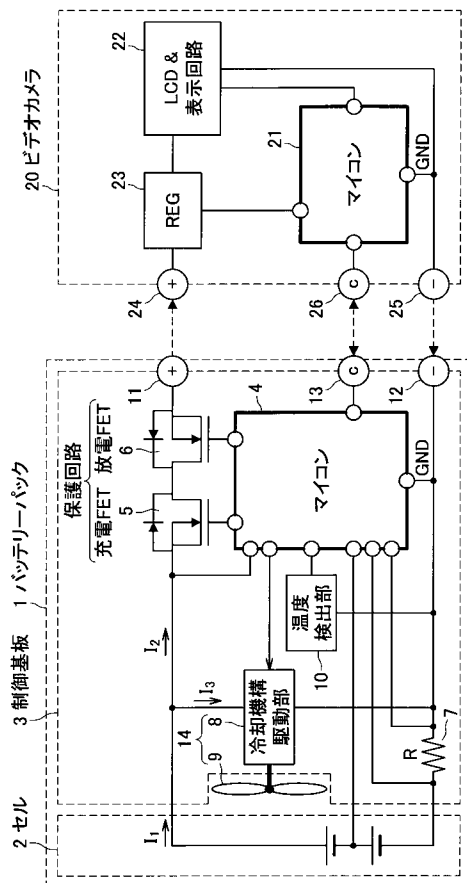
【 0 1 0 1 】

- 1 バッテリーパック
- 2 セル
- 4 , 2 1 , 3 1 マイコン
- 5 充電制御 F E T
- 6 放電制御 F E T
- 7 電流検出抵抗
- 8 冷却機構駆動部
- 9 冷却機構
- 1 0 温度検出部
- 1 1 , 2 4 , 3 5 プラス端子
- 1 2 , 2 5 , 3 6 マイナス端子
- 1 3 , 2 6 , 3 7 コントロール端子 (C)
- 1 4 冷却部
- 2 2 , 3 2 L C D 表示部
- 2 3 , 3 3 R E G
- 3 0 充電器
- 3 4 充電制御回路

10

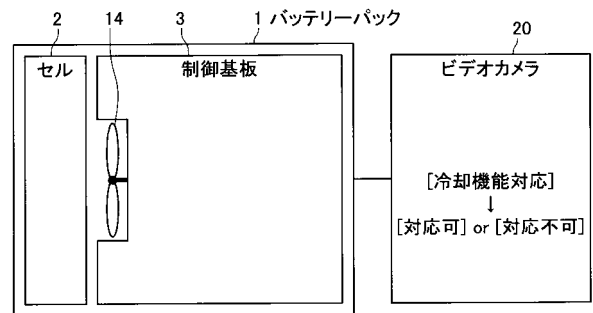
20

【 図 1 】

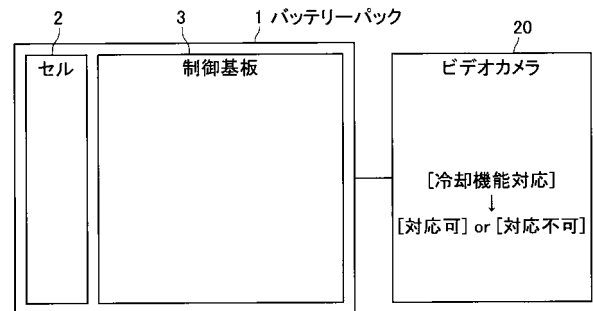


【 図 2 】

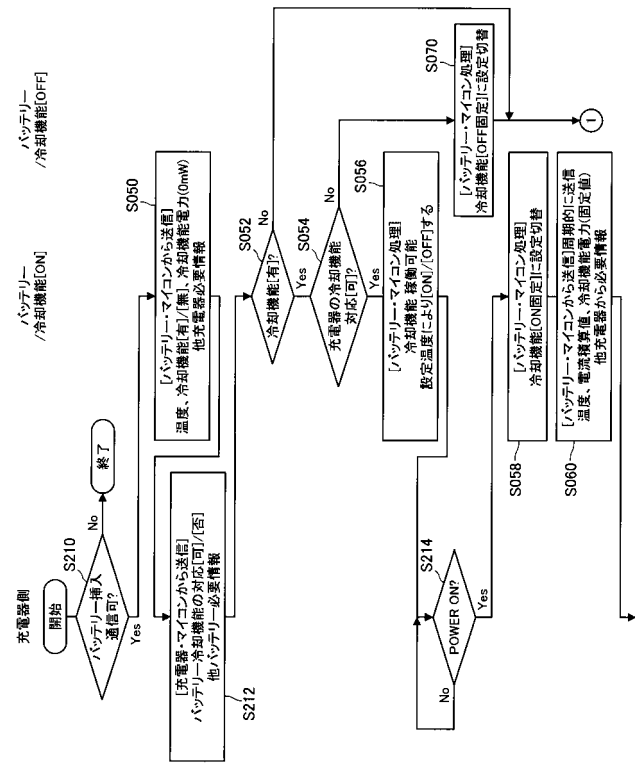
(A)



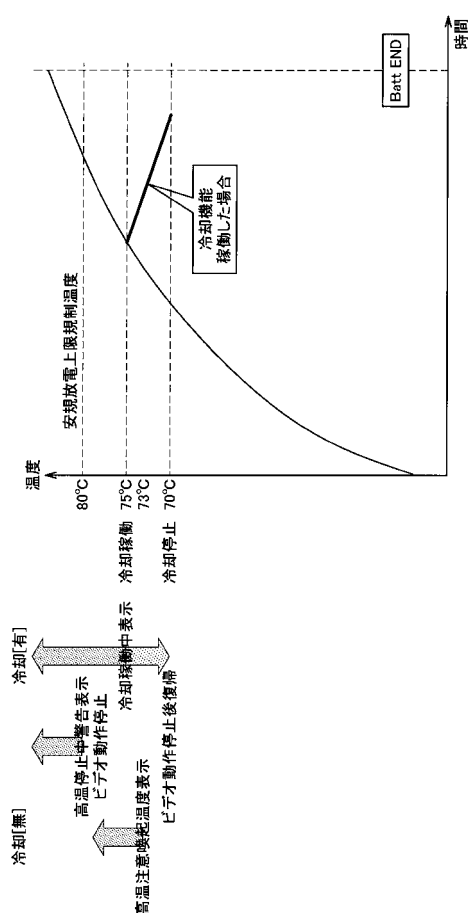
(B)



【 図 9 】



【 図 1 1 】



フロントページの続き

F ターム(参考) 5H030 AA01 AS06 AS11 BB14 DD06 FF22 FF46
5H031 AA09 HH01 HH06 KK00